第八講　「係助詞」／「間投助詞」／「格助詞」

係助詞（ぞ・なむ・や・か・こそ・は・も）

★「係り結びの法則」

○ぞ・なむ・や・か→「　　　」形

○こそ　　　　　　→「　　　」形

＊「結びの語」＝係助詞の上を確認→「　　　　」or「　　　　」の部分

その部分が複数の単語で構成されている場合は、品詞分解をして活用する「　　　」の**一単語**のみ。

（例）これやわが求むる山ならむ。

〔例題一〕　傍線部の係助詞に対応する結びの語を抜き出し、その終止形を書け。

① さることやありし。

② ことば多からぬこそ、飽かず向かはまほしけれ。

③ 心なむまさりたりける。

④ 花こそ咲けれ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「『も』の字」とは何助詞か。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　格助詞　　イ　間投助詞　　ウ　係助詞　　エ　接続助詞　　オ　副助詞

問二　「誘はれざりけるこそ、口惜し［A］」の空欄Aに入る最も適切な語を、次の中から一つ選べ。

ア　からむ　　イ　らむ　　ウ　けれ　　エ　なむ　　オ　べし

★「意味」

○ぞ・なむ・こそ→「　　　　」※訳出不要

○や・か→「　　　・　　　」

※　後ろに答えが**有**＝「　　」

　　〃　　　　　**無**＝「　　」

※「　　・　　」＝**反語**が多い。

※「〜　　。」・「〜　　。」＝**反語**。（**和歌**で多用）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「仰せらるるぞ」の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

① ラ行下二段活用動詞の連体形＋強意の係助詞
② ラ行下二段活用動詞の連用形＋詠嘆の係助詞
③ ラ行四段活用動詞の連用形＋強調の係助詞
④ ラ行四段活用動詞の連体形＋禁止の終助詞
⑤ ラ行四段活用動詞の連用形＋断定の終助詞

問四　「いづこの御いらへかはあらむ」の現代語訳として正しいものを次の中から選べ。

1　どのように御返事申し上げようか
2　どなたに御返事したらよいか
3　もちろん御返事などあるわけがない
4　どうしてこんな御返事をなさるのだろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**「結びの省略」**＝係助詞の「　　」の**一文字**確認

○**に**＋{ぞ／なむ}、。→「　　」を補う

○**に**＋{や／か}、。→「　　」を補う

○**に**＋こそ、。→「　　・　　」を補う

○**と**＋係助詞、。→「（　　）・（　　）」を補う

★**「結びの流れ（消失・消滅）」**　本来結びとなる語に、接続助詞などが付いて、結びがなくなり先へ続いていくこと。

（例）たとひ耳鼻**こそ**切れ失すとも、命ばかりはなどて生きざらむ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　「いづくにか」の後に省略されているものを、次の中から選べ。

ア　来める　　イ　あらん　　ウ　参らばや　　エ　あらじ　　オ　多かりし

問六　次の各傍線部「こそ」の説明として、最も適当と思われるものを、後の中からそれぞれ選べ。

「よろづのこと、さまに従ひて こそ[1] めやすけれ。〈中略〉御声 こそ[2] 惜しみ給ふとも、少しけ近くだに こそ[3]」などいさめ聞こえ給へど…

イ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として終止する。
ロ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として逆接的に下に続く。
ハ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として反語の表現となる。
ニ　係りに対して結びが流れ、強調文として終止する。
ホ　係りに対して結びが流れ、強調文として逆接的に下に続く。
ヘ　係りに対して結びが流れ、強調文として反語の表現となる。
ト　係りだけで、その部分を強調提示する。
チ　係りだけで、言外に逆接的な意味を暗示する。

1＝　　　2＝　　　3＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「逆接強調法」

「文中」の「こそ…已然形、〜」→訳出の時に「…　　　　　、〜」などの「　　　　　」を補う。

★「危惧の用法」

○もぞ
○もこそ
＝「〜したら　　　　　・　　　　　」と訳す。

問七　「殿のうちをだに人あまたしてこそ歩きたまへ、ただひとところ帰りたまふに、…」の傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

1　屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるので
2　屋敷の中までも人を大勢連れてお歩きになれば
3　せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きにならなければ
4　屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるのに
5　せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きください

問八　「風邪などもこそ引かせ給へ」を「もこそ」の意味に注意して現代語訳せよ。　※給ふ＝「〜なさる」と訳す

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

間投助詞（や・よ・を・こそ）

★「こそ」の意味

①　呼びかけ（〜さん）

「人物こそ。」

★「や」・「よ」・「を」の意味

①　詠嘆（〜なあ）

②　強調（訳出不要）

③　呼びかけ（〜よ）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・して・にて）

★「の」の用法

① **主格**（＝〜　　　）

体言の…用言

② **連体（修飾）格**（＝〜　　　）

体言の…体言

③ **同格**（＝〜　　　）

体言の……［　　　形］〜〜〜。

（例）白き花**の**小さきあり。

④ **準体格**（＝〜　　　）

⑤ **連用（修飾）格**（＝〜　　　）

○「　　　」中の「の」で「〜　　　」と訳せる。

○「　　　」の「の」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「が」の用法

「の」と同じ。ただし、**「が」には「連用（修飾）格」の用法はない。**

※同格の「が」

連体形 **が**……連体形～～～。　↓　各連体形の下に**同じ体言**が補えて文意が通じる。

（例）いとやむごとなき際にはあらぬ**が**、すぐれて時めき給ふありけり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題二〕 次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢の中から選べ。

① いかなれば四条大納言のはめでたく、兼久がはわろかるべきぞ。
② いかなる人の御馬ぞ。
③ 惟喬の親王、例の狩しにおはします供に、馬の頭なるおきな仕うまつれり。
④ 月のおもしろかりける夜、みそかに御息所たちの御曹司どもを見歩かせたまひけり。
⑤ 夢に、いと清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たるが来て、…

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

問九 次の傍線部と文法的意味が同じものを、後の中から選べ。

いみじう若うをかしげなる男の、烏帽子・直衣なるが、物も覚えず泣き惑ふさま、…

イ　頭白き女の水汲めるなむ、前よりあやしきやうなる家にいりける
ロ　世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし
ハ　そこらの人の謗り、恨みをも、はばからせ給はず

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　次の傍線部の「の」の用法を、後の中からそれぞれ選べ（同じ記号を何度用いてもよい）。

① 怪（け）と人の申すことどもの、…
② 前（さき）の一条院の御即位の日、…
③ 髪つきたるものの頭（かしら）の、血うちつきたるを見つけたりける、あさましく、…
④ かばかりのことを隠すべきかとて、…

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「して」の重要な3つの訳

①　手段（＝〜　　　　　）

②　共同（＝〜　　　　　）

③　使役の対象（＝〜　　　　　）

（例）人して、惟光召させて…

〔例題三〕　次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢から選べ。

①　御使ひして申させ給ふ。

②　長き爪して眼をつかみつぶさむ。

③　むつまじき四五人ばかりして、まだ暁におはす。

ア　手段　　イ　共同　　ウ　使役の対象

①＝　　　②＝　　　③＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「より」の重要な3つの訳

①　経由（＝～　　　　　　　）

起点（＝～から）で訳せた時、注意！

（例）木の間より洩り来る月の影

②　即時（＝～　　　　　　　）

「　　　　」形＋より→「即時」から考える。

（例）名を聞くより、やがて面影は推しはかるる心地するを…。

③　手段・方法（＝～　　　　　）

「　　　**手段**」が多い。

※「　　　　　　　」（＝徒歩で）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「にて」の用法

①　場所・時間
②　時刻・年齢
③　手段・方法
④　原因・理由
⑤　**資格・状態（～として・～で）**

（例）ただ人にておほやけの御後ろ見をするなむ、行くさきも頼もしげなること。

※「にて」の識別

「～であって」＝断定「なり」㊊＋接続助詞「て」

体言／連体形 ＋にて＝「～であって」→格助詞「にて」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講　「係助詞」／「間投助詞」／「格助詞」

①「その夜は起きあがるべきかは。」の傍線部の文法的な意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　詠嘆　　イ　婉曲　　ウ　疑問　　エ　強調　　オ　反語

②「左衛門の陣などの方にや」の後に補う言葉として最適なものを次の中から選べ。

ア　ありけむ　　イ　ありけめ　　ウ　あるべし　　エ　あれ

③「袖をひろぐるわざをし侍るにこそとうち思ひて…」の傍線の係助詞「こそ」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　あらめ　　イ　あはれめ　　ウ　つつめ　　エ　ながめ　　オ　ならめ

④「人にもこそ会へ」の解釈として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　夫にぜひとも会おう　　イ　人に会ってはまずい

ウ　夫に会えればかまわない　　エ　人に会って来なさい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、…」の二重傍線部の格助詞「の」と同じ用法の「の」を、次のア〜エの傍線を施した「の」のうちから一つ選べ。

ア　この姫君ののたまふこと
イ　男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを召し寄せて、
ウ　箱の虫どもを取らせ、
エ　よろづのもとどもをたづねて、

⑥　次の傍線部ア〜エの「の」のうち、用法が他と違うものを一つ選べ。

林の中の丘だちたるやうなる所にて逍遥(せうえう)したまふ。叟(そう)〔＝老人〕の帽子したるが、舟を葦(あし)につなぎ陸(くが)にのぼり、杖をつきて、琴の調べの終はるを聞く。この琴弾きたまふは誰ぞ。「ただ国の賢き人として政(まつりごと)をし、悪(あ)しき事を直したまふ賢人(かしこびと)なり」と答ふ。

⑦「徒歩よりまうでけり。」の傍線部と同じ用法のものを次の中から選べ。

ア　神代より　吉野の宮に　あり通ひ
イ　つぎねふ　山城路を　人夫の　馬より行くに
ウ　我よりも　貧しき人の　父母は　飢ゑ寒ゆらむ
エ　家づとに　貝を拾ふと　沖辺より　寄せ来る波に　衣手ぬれぬ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　模範解答

〔例題一〕①　し…き　②　まほしけれ…まほし　③　ける…けり　④　れ…り

〔例題二〕①　エ　②　イ　③　オ　④　ア　⑤　ウ

〔例題三〕①　ウ　②　ア　③　イ

問一　ウ

問二　ウ

問三　①

問四　3

問五　イ

問六　1　イ　2　ホ　3　ト

問七　4

問八　風邪などをひきなさったら大変だ

問九　イ

問十　①　ア　②　イ　③　ウ　④　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第八講　「係助詞」／「間投助詞」／「格助詞」

〈解説〉

① 係助詞「か」は疑問か反語。「**かは**」は**反語**になる場合が多い。あくまでも多いなので、もちろん本当は文脈判断が必要になるのだが、まずは反語から考えるとよい。よって、正解はオ。ここでは、あくまで基本の確認テストということで「**かは・やは」＝まず「反語」**を身につけてください（実際の入試問題ですが、反語で正解の設問です）。

② 結びの省略の問題。係助詞の上が「**に**」で、係助詞は「**や**」なので、「**あらむ（あらん）**」が省略されている。が、選択肢に「あらむ」がない。では、次に考えることとして、「**や**」の**結びは連体形**。選択肢の中で連体形になっているものはアのみ。よって、アが正解（本設問は、未来の「む」ではなく、過去の「けむ」になっている例）。

③ 結びの省略の問題。係助詞の上が「**に**」で、係助詞が「**こそ**」なので、「**あらめ**」が省略されている。よって、アが正解。

④ 「**もこそ**」は「**〜したら大変だ・困る**」の意味。その解釈ができているのはイのみ。よって、正解はイ。

⑤ 入試単発問題で「の」が出題されたら、まずは「**同格**」から考えるとよい。設問の「の」の下に**連体形**を探すと、すぐ下の「恐ろしげなる」が形容動詞の連体形。よって、そこに「の」の上の体言＝「虫」を入れて、訳してみると「たくさんの**虫で**、気味悪いような**虫**を取り集めて…」とおかしくないことから、やはり同格確定（もしくは「の」から連体形までを省いて、「たくさんの虫を取り集めて」と確認した人もよいですよ）。選択肢アは主格「が」。イは「の」の下に、「いふかひなき」と**連体形**があるので、そこに「の」の上の体言を入れて訳してみると、「男の童（＝男の子の召し使いを指すことが多い）**で**、物怖じをせず、身分が低い**男の童**を召し寄せて…」とおかしくないので、これが正解。ウ、エは連体（修飾）格「の」。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥ 選択肢イの「の」は、下にある**連体形**「たる」（助動詞「たり」）の下に、「の」の上の体言「叟（＝老人）」を補って、訳が下に続いていくので同格の「の」。他の選択肢は、全て連体（修飾）格。よって、正解はイ。

⑦ 設問は「**徒歩**（かち）**より**」（＝徒歩で）なので手段の用法。選択肢から交通手段を探すとイのみ。よって、正解はイ。

〔解答〕

①オ　②ア　③ア　④イ　⑤イ　⑥イ　⑦イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。